

ストップ！ オイルサンド

Bloody oil - Shut down the tar sands!

NI日本版 No.119 2010年4月号
ストップ！ オイルサンド

< 内容 >

(本文は日本語です)

1 この非在来型原油を 受け入れられない理由

二酸化炭素の排出、環境破壊、地域に住む先住民の暮らしと健康への悪影響など、世界で最も有害な産業プロジェクトと言われるオイルサンド開発。それはいったいどのようなもので、環境と人間にどのような影響を及ぼし、その中止を求める人々はどんな方法で政府や企業と渡り合っているのだろうか。

7 死ぬまで闘い続ける決意

オイルサンド採掘による最大の被害者は自然環境であるが、その自然に依存して生きてきた地元の先住民も生活と健康に大打撃を受けている。小さなコミュニティでのまれながんの発病、川魚の奇形、味が変わってしまったカモの肉、自然の恵みに頼った生活が崩れ、採掘企業が与える仕事に頼らざるを得ないという経済状況の変化...。企業や政府のやり口から、健康被害と問題に立ち向かう人々の動きと決意まで、先住民の視点から現状を報告する。

10 カナダが抱える不幸の源

かつて、いや、今も多くの人が、カナダと聞けば雄大な自然、リベラルな政治、人種的に寛容な社会、環境重視などのイメージを思い浮かべるだろう。しかし、オイルサンドの生産が本格化してから、この国も石油の呪いにとらわれ、現実はそのイメージから遠ざかりつつある。はたしてカナダは、墮落した石油国家に成り下がってしまったのだろうか。

11 オイルサンドの惑星 / 土から原油へ～オイルサンド採掘2つの方法 / 油層内回収法の仕組みと問題

12 アクション！ 何かする・もっと知る / 日本での動き

- ・日本の団体と参考ウェブサイト、本、資料などの情報。
- ・日本とオイルサンドのかかわり、どこから来て、どこへ行くのか。

14 今月のフォーカス

マグロは氷山の一角：深刻な海の問題

マスメディアは、マグロやクジラをめぐる国際政治劇場で起こるドタバタ劇ばかりを報道する。そして私たちは、なじみの深い魚の話に目を奪われがちである。だが、マグロやクジラの話は海の問題の一部にすぎず、状況はずっと深刻だ。あらゆる魚種の資源量減少、海洋汚染、無法な振る舞いの海賊漁船の存在など、海の問題はもっと大きな視野でとらえなければならぬものなのだ。海が抱える問題と、その解決策について探る。

15 世界のニュース

- ・クーデターへの抵抗運動(ホンジュラス)
- ・生臭いビジネスの犠牲(西サハラ)
- ・SPEECHMARKS(ブルース・スプリングスティーン)

16 編集後記、次号のお知らせ、ほか

NI日本版は、英語版からの翻訳・要約記事を中心に構成されています。



この非在来型原油を受け入れられない理由

本誌は、環境破壊、地域に住む先住民の暮らしと健康への悪影響など、世界で最も有害な産業プロジェクトと言われるオイルサンド開発。それはいったいどのようなもので、環境と人間にどのような影響を及ぼし、その中止を求める人々はどんな方法で政府や企業と渡り合っているのだろうか。

膨大なオイルサンドのおかげで石油大国となったカナダ。今この国で、オイルサンド採掘による環境破壊、現地の人々の健康と暮らしへの悪影響、先住民の権利侵害が問題となっている。

オイルサンドとは、油分が含まれた土壌のことで、掘り出して熱湯をかけて油分を分離するか、何カ月も地中に水蒸気を送り込み、油分の粘性を下げてからパイプでくみ上げる。この油分(ピチューメン)は、さらに熱・圧力・化学物質を加えて改質してようやく通常の原油のように利用できる物質となる。かなりエネルギーが必要で(炭素排出量も多く)コストがかかる資源だが、原油価格の高騰によって十分利益が見込めるようになった。そして2003年から、オイルサンドの埋蔵量が世界の原油埋蔵量に含まれるようになり、今やカナダはサウジアラビアに次ぐ世界第2位の石油大国である。

しかしこのオイルの富により、民主的で環境に配慮するイメージで語られるカナダという国の様子がおかしくなっている。今月は、その現場であるアルバータ州の現実と、オイルサンド開発中止を求める世界の市民活動の最前線を報告する。

NI No.431 April 2010
Bloody oil - Shut down the tar sands!

日本版掲載
以外の記事

< 内容 >
(本文は英語です)

モルドールからの脱出

カナダの自然を救うためには、米国と結んだNAFTA(北米自由貿易協定)の見直しが不可欠だ。NAFTAでは、カナダのオイルサンド生産と米国への輸出に条件が設けられ、企業に対する環境的・社会的な縛りが制限されているのだ。

燃える岩

オイルサンドは、ベネズエラでも大規模な埋蔵が確認されて

いるほか、コンゴ共和国やマダガスカルなどでも埋蔵が分かっている。そして、オイルサンドと共に「非在来型原油」と呼ばれるオイルシェール(石油に変化する有機物を含んだ岩や堆積物)も世界中で埋蔵が確認され、大手石油企業が食指を伸ばしている。今回は、国際石油資本のシェル社がオイルシェール開発を進めるヨルダンと米国の現場を訪ねた。

このほかの記事の詳細はウェブサイトをご覧ください。



英語版：A4・カラー・約40p 日本版：A4・モノクロ・16p
【定期購読(年10回発行：1/2月号と7/8月号は合併号)】
英語版&日本版 1年 = ¥9,500
日本版のみ 1年 = ¥4,500
英語版のみ 1年 = ¥7,000

【最新号 / バックナンバー 1部】 ¥500 ~ ¥1,200



< お問い合わせ・お申し込み >

ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン 有限会社インティリンクス

〒182-0035 東京都調布市上石原1-36-6 西調布シティ303

Tel / Fax : 042-498-3126

E-mail : nij@ni-japan.com

URL http://www.ni-japan.com